

一般社団法人日本データベース学会 2024年度 定時総会

【議案】

第1号議案 2023年度に係る報告等

1-1. 2023年度事業報告書

1-2. 2023年度決算書（決議事項）

1-3. 監査報告書

第2号議案 定款の変更（決議事項）

第3号議案 2024年度新役員選任

第4号議案 2024年度に係る計画等

4-1. 2024年度事業計画書

4-2. 2024年度予算計画書

2024年6月22日

一般社団法人 日本データベース学会

<https://dbsj.org/>

## 目 次

### 【議案】

第1号議案	2023年度に係る報告等	1
1-1.	2023年度事業報告書	2
1-2.	2023年度決算書（決議事項）	20
1-3.	監査報告書	25
第2号議案	定款の変更（決議事項）	27
第3号議案	2024年度新役員選任	30
第4号議案	2024年度に係る計画等	34
4-1.	2024年度事業計画書	35
4-2.	2024年度予算計画書	48

[第 1 号議案]

## 1. 2023 年度に係る報告等

1-1. 2023 年度事業報告書

1-2. 2023 年度決算書（決議事項）

1-3. 監査報告書

[第1号議案]

## 1-1. 2023 年度事業報告

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業1：一般社団法人としての活動の整理
5. 実施事業2：DEIM
6. 実施事業3：国際・学会連携
7. 実施事業4：最強データベース講義
8. 実施事業5：データ作法（セミナー等）
9. 実施事業6：学生企画
10. 実施事業7：産学連携推進
11. 実施事業8：情報システム
12. 実施事業9：広報
13. 実施事業10：論文誌編集
14. 実施事業11：表彰
15. 実施事業12：ダイバーシティ推進
16. 補足説明：名誉会員の推薦

その他・附属明細書

# 2023 年度事業報告

---

## 1. 概況

---

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2023 年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う 3 年目であった。2021 年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022 年度には役員を改選し会長が交代した。それに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023 年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正を行い、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行った。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与する。

---

## 2. 会員数について

---

2021 年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加している。それに加えて、2021 年度より DEIM の参加者は DBSJ 会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、正会員数が 2022 年度は 822 名、2023 年度は 895 名と大幅に会員が増加した。

	2021 年度総会	2022 年度総会	2023 年度総会	2024 年 3 月末
正会員	484 名	822 名	895 名	904 名
学生会員	74 名	503 名	750 名	792 名
維持会員	21 社	26 社	26 社	26 社

2023 年度定時総会で定款を改定し、正会員を第一種と第二種に分割し、従来のフルアクセス権付正会員を第一種、フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した。従来 DBS

研，DE 研登録者はフルアクセス権付だったが，その特典を無くし，第一種正会員は年会費を支払うこととした。ただし，DEIM 参加者は翌年度の年会費を免除する。これにより，その年度の年会費を支払ったか，前年度の DEIM に参加した正会員が第一種正会員となる。2023 年度末時点で，第一種正会員は 355 名，第二種正会員は 549 名であった。

---

### 3. 会議等に関する事項

---

下記の会議を実施した。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努めた。

#### 3.1 2023 年度 定時総会

2023 年 6 月 16 日(金)に武蔵野大学有明キャンパス 1 号館 4 階 1-406 号教室とオンラインによるハイブリッドで開催した。

#### 3.2 理事会および各種委員会

理事会は以下の通り，計 9 回開催した。

第 21 回と第 25 回はハイブリッド開催，他はオンライン開催であった。

第 20 回：2023 年 6 月 1 日(木)	第 21 回：2023 年 6 月 16 日(金)*
第 22 回：2023 年 7 月 27 日(木)	第 23 回：2023 年 10 月 5 日(木)
第 24 回：2023 年 11 月 27 日(月)	第 25 回：2023 年 12 月 8 日(土)*
第 26 回：2023 年 12 月 27 日(水)	第 27 回：2024 年 1 月 26 日(金)
第 28 回：2024 年 3 月 23 日(土)	

維持会員が参加する評議委員会を 2023 年 9 月 13 日(水)にオンラインにて開催した。

その他各種委員会もすべてオンラインにて開催した。

---

### 4. 実施事業 1：一般社団法人としての活動の整理（定款第 4 条第 1 項 8 号）

---

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は，一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に，よりよくするために継続的に改善している。

活動概要では，2023 年度の改善項目を挙げている。

## 【活動概要】

### 4.1 会員・会費制度改正

2022 年度から検討してきた、正会員を第一種と第二種に分け、年会費を支払う第一種正会員が選挙権・被選挙権をもつように定款・会員規程を改訂する案を 2023 年度 DBSJ 定時総会および DBSJ 理事会にて承認した。また、名誉会員が第一種正会員および維持会員と同等の権利を持つように、高校生と中学生も学生会員となることができるように定款を変更した。さらに、DEIM 参加者に対する次年度年会費免除を規定により定めた。

名誉会員が第一種正会員と同等の権利をもつことが明確になったことを受けて、3 月の理事会で 15 名の会員を名誉会員として推薦した。

### 4.2 委員会組織の継続的見直し

定款第 4 条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会構成を随時見直し、2024 年度の委員会構成として、若手活性化委員会、会員交流委員会の 2 つの委員会を新たに設け、また、ハラスメント防止・D&I 推進に関しては常設の委員会に変更する案を策定した。

### 4.3 事務局機能の強化

2023 年度より事務局機能を強化するため、事務局業務の一部を業務委託した。

また、事務局の会計業務に関し、経費精算に関する規程や帳票類を整備するとともに、オンライン決済の円滑化のためビジネスカードの導入も実施した。

### 4.4 理事交代方法改善の検討

2024 年度の役員選挙に向けて、役員候補者を検討する際に、理事交代の方法を改善した。具体的には、連携組織（DBS、DE、SIGMOD-J）の組織長を理事候補者に含めるとともに、一定以上の口数の維持会員に対して、理事候補者の選出を打診することとした。

### 4.5 一般会計と特別会計の見直し

特別会計を廃止し、一般会計に統合した。また、一般会計は、毎年の定常的な活動に関する収支を記載した「運転資金」、国際会議関連の収支を記載した「国際会議準備金」、システム開発など一時的に発生する費用の収支を記載した「事業積立金」の 3 区分で管理することとした。2023 年度は、国際会議 VLDB の余剰金を運転資金から国際会議準備金に移すなど、区分間の見直しを行った。

### 4.6 消費税課税業者への移行

一般社団法人日本データベース学会は、これまで、消費税課税免税業者だったが、2023 年度より 2 期前の 2021 年度の売上げが 1000 万円超となったため、消費税課税業者に移行した。また、2023 年度 10 月 1 日より消費税のインボイス制度が施行されるのにもとない、本学会は、インボイス制度適用を申請し、10 月 1 日以後は、インボイス適用団体となった。これに伴い、事務局の会計業務の一部を外部の税理士法人に追加委託した。

#### 4.7 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第 4 条第 1 項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めた。具体的には、今後の本会活動を役員で議論するため、12 月 8 日に甲南大学 NC 東京及び Zoom オンライン会議のハイブリッド形式にて、「DBSJ のさらなる進化に向けて」の議論を実施。現地 2 チーム、オンライン 1 チームの構成で、(1)産学交流の活性化と、(2)若手研究者の活動活性化の 2 テーマで議論。結果は、「次期会長・次期役員及びビジョン検討 WG」を 6 回開催して議論し、2024 年度の事業計画や委員会構成に反映した。

---

## 5. 実施事業 2 : DEIM (定款第 4 第 1 項 1 号)

---

担当：イベント委員会

本事業の目的は、DEIM (データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム) を DB コミュニティ最大の研究発表、交流の場として、DB コミュニティの活性化及び拡大化のための中核をなすイベントとすることである。

### 【活動概要】

DEIM2024

会場：オンラインと対面アクリエ姫路

対面：2 月 28 日～3 月 1 日 オンライン：口頭発表

3 月 4 日 チュートリアル、インタラクティブ、ネットワーキング、

DBSJ 学生企画+産学連携

3 月 5 日 インタラクティブ、DBSJ アワー

投稿状況

論文発表 420 件 (申し込み 446 件)

ロング 355 件、ショート 58 件、直前キャンセル 7 件

インタラクティブ発表 371 件



スポンサー数：22社（内新規10社）

プラチナ：8社（内新規1社）

ゴールド12社（内新規7社）

シルバー：2社（内新規2社）

維持会員13社，非維持会員9社

参加者数：800名

会費区分

区分	事前参加登録価格 (税別)(~2/16まで)	当日参加登録価格 (税別)
一般(DBSJ会員)	12,000円	30,000円
一般(本申込でDBSJに登録)	12,000円	30,000円
一般(非会員)	24,000円	30,000円
学生(DBSJ学生会員)	1,000円	5,000円
学生(本申込でDBSJに登録)	1,000円	5,000円
学生(非会員)	2,000円	5,000円
招待者(招待コードが必要)	無料	無料

トピック

- ① DEIM2023に引き続き，直列型ハイブリッドにて開催  
(口頭発表はオンライン，インタラクティブ，チュートリアル等は対面)
- ② 直列型ハイブリッド開催においてオンラインから対面の間となった土日は休日または移動日とした。
- ③ 参加者をDBSJ会員とし，DEIM2024に参加した会員は会員費無料とした。  
尚，オプトアウト方式にて会員の希望しない人は非会員とした。
- ④ 参加費を事前登録と直前登録とで分けた(事務効率化のため)
- ⑤ 事務効率化のため，HPや参加登録をconfit(アトラス社)で行った。
- ⑥ 対面時コミュニティの活性化を図ることを目的として，昨年に引き続きネットワーキングを行い，盛況だった。
- ⑦ ネットワーキングと並列セッションとして産学連携セッションを開催し，こちらも盛況だった。

---

## 6. 実施事業3：国際・学会連携（定款第4第1項1号）

---

担当：国際連携・学会連携委員会

本事業の目的は、DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントを実施することである。国際連携では、日本と韓国、中国間の DB コミュニティの連携を深めることを目的とする。学会連携では DBSJ と各学会の DB 系研究会が連携することを目的とする。

### 【活動概要】

- (1) 第14回ソーシャルコンピューティングシンポジウム  
The 14<sup>th</sup> Social Computing Symposium (SoC 2023)  
日時：2023年6月16日  
場所：武蔵野大学有明キャンパス（オンラインとのハイブリッド開催）  
主催：日本データベース学会（DBSJ）  
電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会  
ACM SIGMOD-J  
協賛：情報処理学会 データベースシステム研究会  
ARG Web インテリジェンスとインタラクション研究会  
DBSJ 総会等との合同開催  
発表件数：10件  
招待講演：2件（日本放送協会（NHK）報道番組センター社会番組部（デジタル開発班） 鈴木章雄氏、株式会社 AbemaTV 開発本部 海老澤颯氏）  
日本データベース学会特別功労賞記念講演：喜連川優先生  
参加登録者：162名
  
- (2) 先端的データベースと Web 技術動向講演会  
(ACM SIGMOD 日本支部大会)  
日時：2023年7月8日（土）13:00-17:25  
会場：オンライン  
WWW 報告+PAKDD 招待講演報告  
WWW：兵庫県立大大島研&山本研学生，PAKDD：阪大櫻井研究室木村先生  
参加者：28名  
  
日時：2023年11月18日（土）13:00～15:20  
会場：オンライン  
VLDB2023：NTT コンピュータ&データサイエンス研究所 別所様

参加者：11名

主催：日本データベース学会（DBSJ）

ACM SIGMOD-J

(3) WebDB 夏のワークショップ(DBS/IFAT/DE 合同研究会)

日時：2023年9月21日ー22日

場所：北九州国際会議場

テーマ：ビッグデータを対象とした管理・情報検索・知識獲得および一般

発表件数：39件

参加者数：70名

(4) Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

日時：2023年11月27日（金）ー29日（日）

対面実施：山口湯田温泉

参加者 日本側 31名 韓国側 23名 合計 54名

(5) 日中ワークショップ

2023年度はコロナ禍の影響で残念ながら開催できなかった

---

## 7. 実施事業4：最強データベース講義（定款第4条第1項1号および7号）

---

担当：DBSJ 講義委員会

本事業の目的は、DB 関連分野の各項目について、その道の第一人者ならでの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し、大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

### 【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施。

- ① 講義コンテンツの作成と配信
- ② 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査
- ③ タグ付けや講義間関係などの整備と公開準備
- ④ コンテンツを利用した勉強会等派生イベント、他の活動(DEIM 等)への接続性の検討

### 【今年度の実績】

- 4月24日 #24 データ連携分析技術 ～データでつなぐ人・もの・コト～ (是津耕司様)  
申込者数 89名 (学生6, 一般83)
- 6月7日 #25 あたらしいSQLのかたち ～仮説の生成と解釈～ (石川博 先生)  
申込者数 91名 (学生3, 一般88)
- 6月20日 #26 差分プライバシーとは何か(佐久間淳先生)  
申込者数 76名 (学生7, 一般69)
- 7月19日 #20-2 ネットワークトラフィックデータ解析 (小口正人先生)  
申込者数 49名 (学生2, 一般47)
- 9月27日 #27 機械学習で関係を予測する～組合せ特徴・ランダム特徴の活用～(小山聡先生)  
申込者数 77名 (学生3, 一般74)
- 10月25日 #28 神経活動データ解析の基礎(手塚太郎先生)  
申込者数 36名 (学生1, 一般35)
- 11月22日 #29 検索・対話システムの公平性を評価する(酒井哲也先生)  
申込者数 44名 (学生4, 一般40)
- 12月19日 #30 グローバルランザクションを実現する技術(山田浩之氏)  
申込者数 94名 (学生8, 一般86)
- 1月22日 #31 大規模言語モデルの基礎・最新動向(西田京介氏)  
申込者数 311名 (学生50, 一般261)
- 2月21日 #32 大規模言語モデルを作り拡張する -- LLM, RAG, Agents (小山田 昌史 氏)  
申込者数 159名 (学生9, 一般150)
- conpass グループ登録者数(2024年3月23日現在) : 1723名  
- Youtube チャンネル登録者数(2024年3月23日現在) : 8680名

---

## 8. 実施事業5：データ作法（セミナー等）（定款第4第1項1号及び5号）

---

担当：セミナー委員会

本事業の目的は、セミナーを通じて、研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し、法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである。

### 【活動概要】

「私達は法に準拠してデータをどうやって集めてどのように使えばよいのか？」という研究者や技術者の疑問を解消するためのセミナーを 2019 年度から著作権法や個人情報保護

法, AI や医学系研究の倫理等に関する課題などを対象として開催してきた。このような法律に関わる課題に取り組むため, 法律の専門家による法的な話題の講演に加えて, 企業などからの実践的な課題に対する講演, さらには参加者を交えた深掘りの議論するためのパネルディスカッションで構成されるセミナーとして企画・開催している。2023年度は計8回のセミナー委員会を開催して生成AIを主テーマに「生成AIを使う」「生成AIを作る」「生成AIのガバナンス」のセミナーを計画し, 以下の様に開催した。

2023年7月1日(土) 13:00-17:00

第1回DBSJセミナー 「AI生成コンテンツ利用における法的課題や活用事例」

講演1: 企業やアカデミアで生成AIを利用する場合の著作権・個人情報保護法制に関する課題について

弁護士法人STORIA

DBSJ理事

柿沼太一

森・濱田松本法律事務所

田中浩之

講演2: ChatGPTをベースとした「ConnectAI」の全社員への展開事例

パナソニックコネクト株式会社 IT・デジタル推進本部

戦略企画部 シニア・マネジャー

向野 孔己 (むかいの ひろき)

講演3: Gunosyにおける生成AI活用プロジェクトの紹介

株式会社 Gunosy テクノロジー本部 データサイエンス部 部長 小澤 俊介

株式会社 Gunosy テクノロジー本部 R&D 飯塚 洸二郎

パネルディスカッション モデレーター 横田治夫(DBSJ会長)

柿沼太一, 田中浩之, 向野 孔己, 小澤 俊介, 飯塚 洸二郎

聴講者 約130名弱(最大聴講者数)

2023年9月2日(土) 13:00-17:00

第2回DBSJセミナー 「AI生成コンテンツ開発における法的課題や活用事例」

講演1: 生成AI構築時における個人情報保護規制と著作権保護

弁護士法人STORIA

DBSJ理事

柿沼太一

森・濱田松本法律事務所

田中浩之

講演2: サイバーエージェントにおける生成AIの開発について

株式会社サイバーエージェント AI 事業本部 AI クリエイティブ Div  
機械学習エンジニア

石上 亮介

講演 3：大規模言語モデル周辺技術と応用について

LINE 株式会社 AI 開発室 NLP PF Dev チーム マネージャ

牧田光晴

パネルディスカッション： モデレータ 横田治夫(DBSJ 会長)

柿沼太一，田中浩之，石上 亮介，牧田光晴，

聴講者：約 70 名弱（最大聴講者数）

2023 年 11 月 11 日(土) 13:00 – 17:00

第 3 回 DBSJ セミナー「生成 AI ガイドラインにおける法的課題や活用事例」

講演 1：マルチモーダル AI の社会的インパクトと課題

公益財団法人東京財団政策研究所 研究主幹

東京大学大学院 特任教授/ 東京大学名誉教授

須藤 修

講演 2：世界の AI ガバナンスの動向

京都大学 法学研究科 特任教授

スマートガバナンス株式会社 代表取締役 CEO

羽深 宏樹

講演 3：生成 AI への取組みと行政 DX の可能性

兵庫県 情報戦略監

赤澤 茂

パネルディスカッション： モデレータ 横田治夫(DBSJ 会長)

須藤 修，羽深 宏樹，赤澤 茂，木俣豊（DBSJ 特命副会長）

---

## 9. 実施事業 6：学生企画（定款第 4 第 1 項 3 号）

---

担当：企画委員会

本事業の目的は、本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし、学生自身が活躍できる機会を提供するものである。学生自身が関心を寄せるトピックを中心に、学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう、DBSJ として支援する。

### 【活動概要】

- (1) イベント・プログラムの企画～設計の支援
- (2) イベント・プログラムの運営支援
  - ・2023/6～9月に4回の企画会議を実施、開催計画を練った
  
  - ・2023/10/11 DBSJ 学生企画 **第12弾**を開催した  
「株式会社ソラコム 片山さんに聞く！！  
～IOTの民主化を目指して大企業からスタートアップへ～」  
【参加者：約40名】
  
  - ・2024/3/4 DEIM2024にてDBSJ 学生企画 **第13弾**を開催した  
「DEIMを飛ばした学生の今」  
【パネリスト：12名、参加者：約150名】  
※約2時間に渡るパネルディスカッションは、54件もの質問が寄せられるなど  
大変に活況な場となった

---

## 10. 実施事業7：産学連携推進（定款第4第1項3号）

---

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、アカデミアとインダストリアルの間、さらにはインダストリアルとインダストリアルの間における技術的な情報の共有、人的な交流を促進することで、産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

### 【活動概要】

- (1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム  
下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。
  - ・東芝デジタルソリューションズ：GridDB  
→3件の利用申請があり、それぞれを承認、研究に活用いただいた
- (2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）  
DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ（以下、IDR）に参画している企業より希望者に対しデータを提供し、実データを使った研究を

支援するプログラムであり、本年度は12/11(月)に一橋講堂にて開催された(オンライン開催は4年ぶり。現地参加：150名、オンライン参加：40名)

<https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/2023.html>

・下記の発表にDBSJ特別賞を授与した

「地域特性推定のための地物カテゴリを利用した自己教師あり学習」

福地湧氏(関西学院大学)

牛尼剛聡氏(九州大学), 田中克己氏(福知山公立大学), 角谷和俊氏(関西学院大学)

→2024/3 DEIM2024に招待, 口頭発表の機会を提供した

(3) 産学マッチング(企業課題×研究テーマ)ならびに産産交流

12/8金 DBSJ理事会(第25回)にて「産学連携 交流促進」をテーマにブレストを実施。その中で「産学マッチング」「交流促進」の方向性について方針を検討した

・産学マッチング:次年度も引き続き検討を進める

・交流促進:2024/6 SoCにて産×学パネルを実施することを決定した

---

## 1 1. 実施事業8:情報システム(定款第4第1項6号)

---

担当:情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

### 【活動概要】

(1) 会員システムの第二期改修

新会員システムの構築が完了し、2024年1月に納品が完了した。同年2月より運用を開始した。

(2) Web・会員DBの運用・維持

前会員システムから新会員システムへの円滑な移行、新会員システム運用後に発見された細かな不具合の修正、GMAILのメール配送基準変更にもなう対応などを行ない、安定した運用を実施した。Webについても同様に安定した運用を実施した。



---

## 1 2. 実施事業 9 : 広報 (定款第 4 第 1 項 2 号)

---

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

### 【活動概要】

#### (1) News Letter の刊行

2023 年度は以下の News Letter を発行した。News Letter は従来のメール配信だけでなく、本会の Web ページでも、Web ページの体裁に合わせた形式で写真付きの著者紹介付きで掲載するようにした。

- 4 月 1 日：Vol. 16, No. 1: DEIM 2023, NeurIPS 2022, AAI 2023 発行。
- 6 月 1 日：Vol. 16, No. 2: WWW 2023, ECIR 2023, ICDE 2023 発行
- 7 月 1 日：Vol. 16, No. 3: 日本データベース学会受賞特集号 発行
- 8 月 1 日：Vol. 16, No.4: PAKDD 2023, SIGMOD 2023, ACL 2023 発行
- 10 月 2 日： Vol. 16, No. 5: ICML 2023, KDD 2023, VLDB 2023 発行
- 11 月 3 日：Vol. 16, No. 6: 若手研究者対談企画号 発行
- 12 月 1 日：Vol. 16, No. 7: ACM RecSys 2023, ACM CIKM 2023, ACM Multimedia 2023 発行
- 2 月 1 日：Vol. 16, No. 8: IEEE Big Data 2023, SIG SPATIAL 2023, NeurIPS 2023 発行

#### (2) 最強データベース講義のポータルページの作成

Youtube で公開している最強データベース講義シリーズのポータルサイトを本会 Web ページ中に作成し、講義ビデオ情報の集約化を行った。

---

## 1 3. 実施事業 1 0 : 論文誌編集 (定款第 4 第 1 項 2 号)

---

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

### 【活動概要】

「日本データベース学会論文誌（和文）」および「データドリブンスタディーズ」を発行した。

(1) 日本データベース学会論文誌（和文・英文）の発行

① 自由投稿および DEIM 2023 からの推薦論文を対象

② 和文論文誌（Vol. 22-J）の発行

和文論文誌に論文 6 編を採録した。今年度は英文誌の発行はなかった。

(2) 「データドリブンスタディーズ」の発行

① Vol. 3 の発行

論文 2 編を採録した。

---

## 1 4. 実施事業 1 1：表彰（定款第 4 第 1 項 8 号）

---

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

### 【活動概要】

（2023 年度事業報告）

1. dbjapan において、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞に関する推薦依頼を行った。

2. 表彰委員会を立ち上げ各賞の選定を行い、DEIM 2024 に表彰式を開催した（2024 年 3 月 5 日）。

今年度の受賞者は以下の通り。

功労賞	北川 博之 氏（筑波大学） 清木 康 氏（慶應義塾大学／武蔵野大学）
若手功績賞	奥 健太 氏（龍谷大学） 北山 大輔 氏（工学院大学） 清水 敏之 氏（九州大学） 平手 勇宇 氏（楽天グループ株式会社） 山本 祐輔 氏（名古屋市立大学）
上林奨励賞	加藤 郁之（京都大学） 川畑 光希（大阪大学） 中嶋 一貴（東京都立大学） 陸 可鏡（名古屋大学）

---

## 15. 実施事業12：ダイバーシティ推進（定款第4第1項4号及び8号）

---

担当：ダイバーシティ・ハラスメント委員会

本事業の目的は、DBSJ内のダイバーシティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJに関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

### 【活動概要】

2023年度は、DEIMを中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施した。また、ハラスメント防止に関して、内規やハラスメント発生時の処理フローの作成を行った。

(1) ダイバーシティ推進事業（男女共同参画学協会連絡会への対応を含む）

① DEIMでのハラスメント防止活動

(2) ハラスメント防止委員会

ハラスメント通報のルールに関する内規を作成

ダイバーシティ・ハラスメントに対する考え方を宣言としてまとめてWebで公表

ハラスメント発生時のフローを作成

---

## 16. 補足説明：名誉会員の推薦

---

3月に開催した第28回DBSJ理事会において、名誉会員に関する内規を制定した上で、以下に挙げる会員15名を名誉会員候補として推薦した。

歴代会長（5名）：

増永 良文  
西尾 章治郎  
北川 博之  
清木 康  
喜連川 優

功労賞受賞者（10名，歴代会長を除く）：

石井 義興  
田中 克己  
國井 秀子  
植村 俊亮  
安達 淳  
川越 恭二  
三浦 孝夫  
宮崎 収兄  
井上 潮  
石川 博

---

---

その他・附属明細書（法定記載事項）

---

---

その他，事業内容を補足する重要な事項はありません。

以上

[第1号議案]

1-2. 2023 年度決算書（決議事項）

1. 貸借対照表
2. 正味財産増減計算書
3. 財務諸表における注記
4. 附属明細書
5. 財産目録

# 1. 貸借対照表

## 貸借対照表

2024年3月31現在

一般社団法人日本データベース学会  
(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資 産 の 部</b>			
1 流 動 資 産			
現金預入金	56,209,715	54,767,614	1,442,101
未収入金	840,915	7,375,000	△6,534,085
立替金	2,000,000	0	2,000,000
流動資産合計	59,050,630	62,142,614	△3,091,984
2 固 定 資 産			
ソフトウェア	2,403,500	0	2,403,500
固定資産合計	2,403,500	0	2,403,500
<b>資 産 合 計</b>	<b>61,454,130</b>	<b>62,142,614</b>	<b>△688,484</b>
<b>II 負 債 の 部</b>			
1 流 動 負 債			
未払金	482,130	2,960,647	△2,478,517
未払費用	189,510	88,850	100,660
前受金	63,000	51,000	12,000
預り金	112,046	1,893	110,153
流動負債合計	846,686	3,102,390	△2,255,704
2 固 定 負 債			
固定負債合計	0	0	0
<b>負 債 合 計</b>	<b>846,686</b>	<b>3,102,390</b>	<b>△2,255,704</b>
<b>III 正 味 財 産 の 部</b>			
1 指 定 正 味 財 産	0	0	0
2 一 般 正 味 財 産	60,607,444	59,040,224	1,567,220
<b>正 味 財 産 合 計</b>	<b>60,607,444</b>	<b>59,040,224</b>	<b>1,567,220</b>
<b>負債および正味財産合計</b>	<b>61,454,130</b>	<b>62,142,614</b>	<b>△688,484</b>

## 2. 正味財産増減計算書

### 正味財産増減計算書

一般社団法人日本データベース学会

令和5年4月1日～令和6年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
論文収入	354,500	390,000	△ 35,500
受取会費	5,305,000	5,529,000	△ 224,000
維持会員費受取金	5,200,000	5,400,000	△ 200,000
正会員受取会費	105,000	129,000	△ 24,000
参加費・寄付金	14,390,800	11,649,326	2,741,474
DEIM参加費・論文投稿費	9,490,800	7,025,000	2,465,800
DEIM協賛金	4,900,000	4,140,000	760,000
受取寄付	0	484,326	△ 484,326
受託研究	0	0	0
基本財運用収入	554	528	26
雑収益	0	0	0
経常収益計	20,050,854	17,568,854	2,482,000
(2) 経常費用			
事業費	11,836,256	7,165,884	4,670,372
給料手当	425,283	689,359	△ 264,076
福利厚生費	0	0	0
業務委託費	0	2,667,565	△ 2,667,565
謝金	477,963	354,788	123,175
印刷製本費	9,680		9,680
会議費	8,189,071	1,440,090	6,748,981
旅費・交通費	390,067	438,530	△ 48,463
交際費	647,503	743,653	△ 96,150
通信運搬費	1,255,071	332,726	922,345
消耗品費	94,107	316,241	△ 222,134
支払手数料	347,511	124,465	223,046
衛生費	0	58,467	△ 58,467
管理費	6,567,378	3,157,705	3,409,673
給料手当	1,053,000	1,069,000	△ 16,000
業務委託費	2,640,000		2,640,000
会議費	22,110	22,110	0
交際費	5,500	0	5,500
旅費・交通費	35,740	9,310	26,430
通信運搬費	464,138	363,020	101,118
消耗品費	151,906	4,878	147,028
修繕費	330,000	0	330,000
地代家賃	13,750	14,850	△ 1,100
租税公課	21,284	12,230	9,054
支払手数料	40,920	29,205	11,715
支払寄付金	10,000	10,000	0
広告宣伝費	396,000	401,412	△ 5,412
雑費	0	22,690	△ 22,690
支払報酬	1,132,450	1,199,000	△ 66,550
減価償却費	250,580		250,580
経常費用計	18,403,634	10,323,589	8,080,045
当期経常増減額	1,647,220	7,245,265	△ 5,598,045
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産売却(除却)損	0	0	0
前期損益修正損	10,000	0	10,000
経常外費用計	10,000	0	10,000
当期経常外増減額	△ 10,000	0	10,000
税引前当期一般正味財産増減額	1,637,220	7,245,265	△ 5,655,045
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	1,567,220	7,175,265	△ 5,608,045
一般正味財産期首残高	59,040,224	51,864,959	7,175,265
一般正味財産期末残高	60,607,444	59,040,224	1,567,220
II 指定正味財産増減の部			
(1) 収益	0	0	0
収益計	0	0	0
(2) 費用	0	0	0
費用計	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	60,607,444	59,040,224	1,523,220



### 3. 財務諸表における注記

#### 3-1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準および評価方法は先入先出し法による原価法によります。

(2) 固定資産の減価償却方法

固定資産の減価償却は法人税法で定める定額法によります。なお、取得価格が30万円未満のものについては費用処理しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込み方式によっています。

#### 3-2. 特定資産財源の増減額および残高

特定資産に該当する資産がないため、計上しておりません。

#### 3-3. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額及び残高

補助金に該当するものがなかったため、計上しておりません。

以上

### 4. 附属明細書

#### 4-1. 特定資産の明細

特定資産に該当するものがいないため、記載しません。

## 5. 財産目録

### 財産目録

(2024年3月31日現在)

(単位：円)

貸借対照表科目	場所	使用目的	金額
流動資産			
現金預金			
現金	手許保管	運転資金に充てるもの	10,004
預金	三井住友銀行 小石川支店	運転資金に充てるもの	37,337,410
	三井住友銀行 小石川支店	国際会議基金	12,315,134
	三井住友銀行 小石川支店	事業積立金	6,547,167
		(普通預金口座計)	56,199,711
		(現金預金口座計)	56,209,715
未収入金			
	ロボットペイメント	DEIM2024参加費・論文投稿料	109,915
	サイバーエージェント	DEIM2024協賛金	400,000
	横浜国立大学	論文投稿料	55,000
	静岡大学		44,000
	名古屋市立大学(1件目)		44,000
	名古屋市立大学(2件目)		44,000
	筑波大学		44,000
	日立製作所	DEIM2024ランチョンセミナー	100,000
立替金			
	DASFFA	立替金	2,000,000
流動資産合計資産合計			59,050,630
固定資産			
有形固定資産			
	ヤマダ電機	パソコン	0
無形固定資産			
	横山電算機	新規会員データベース構築・改修	2,403,500
固定資産合計			2,403,500
資産合計資産合計			61,454,130
流動負債			
未払金			
	千代田都民税事務所	法人都民税	70,000
	三井クレジットカード	DEIM2024開催のための物資調達	167,651
		事務局Adobe月額利用料	1,848
	Slack利用料	DEIM運営委員連絡用ツール(6か月分)	210,442
	まねき	DEIM2024運営委員会お弁当代	22,360
	ヤマト運輸	DEIM2024名札送付代	1,909
	福地湧	DEIM2024招待客交通費	7,920
未払費用			
	三井倉庫など	給料手当・家賃など	189,510
前受金			
	会員	2024年度DBSJ年会費へ充当	63,000
預り金			
	小石川税務署	源泉徴収	112,046
流動負債計資産合計			846,686
負債合計資産合計			846,686
正味財産合計			60,607,444

[第 1 号議案]

### 1-3. 監査報告書

2024年5月30日

一般社団法人 日本データベース学会  
代表理事 横田 治夫殿 藤原 真二殿

監事 中野美由紀  
監事 山名早人



私たち監事は、一般法人法第99条第1項及び一般社団法人日本データベース学会定款第25条第1項の規定に基づく監査報告を行うため、一般社団法人日本データベース学会の2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日）の事業報告、計算書類、これらの付属明細書、その他理事の職務執行の監査を実施いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

各幹事は理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報収集及び監査の環境の整備に努めると共に、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からもその職務の執行状況について、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法にもとづき、当該事業年度に係る事業報告書及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

#### 2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適性を確保するために必要な体制の整備等について理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類及び附属明細書並びに財産目録等は当法人の財産及び損益の状態を全ての重要な点において適性に表示しているものと認めます。

以上

[第2号議案]

## 2. 定款の変更

## 定款の変更

日本データベース学会において、これまで特命副会長の役割としていたダイバーシティ・ハラスメント防止関連の役割を副会長の役割とするため、副会長の定員の変更が必要となる。また「特命参与」という役職を新設する。この2点の変更のため、定款を変更する。

定款の第50条（定款の変更）「この定款は、社員総会における、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数の決議によって変更することができる。」に従い、以下に示す定款の変更をご承認いただきたい。

定款変更の要点：

1. 第22条第2項、「その他4名以内を副会長とし」を「その他5名以内を副会長とし」に変更する。
2. 第32条から第58条までを1条ずつ繰り下げ、第33条から第59条に改める。
3. 第32条として特命参与の条項を追加する。

定款に追加する第32条：

（特命参与）

第32条 当法人は、特命参与を置くことができる。

- 2 特命参与は、自らの知見を活かし、この法人の事業に協力する。
- 3 特命参与は、会長が候補者を理事会に提案し、理事会において選任するものとする。
- 4 特命参与の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。
- 5 特命参与は、無報酬とする。

**【補足説明（報告事項）】**

本定款変更に伴い、定款の第 32 条以後を参照している以下の規定を改定する。

1. 役員候補選出および役員選挙に関する規程
2. 事務局規程

本定時総会で定款の変更が承認された後、上記規定の改定を理事会で承認し、令和 6 年 6 月 22 日から施行する。

**【規程改定の変更箇所】**

1. 役員候補選出および役員選挙に関する規程  
第 8 条「定款第 33 条第 1 項第 5 号」を「定款第 34 条第 1 項第 5 号」に変更
2. 事務局規程  
第 1 条「定款第 54 条」を「定款 55 条」に変更

以上

[第3号議案]

### 3. 2024年度新役員選任



## 新役員の選任

定款第 23 条により、役員が本定時総会の終結と同時に任期満了退任となるので、2024 年 4 月に実施された役員改選選挙を踏まえ、下記の候補者をそれぞれ選任することにしたい。  
(参考：選挙投票率：理事（会長） 61.97%、理事（会長を除く） 61.70%、監事 60.90%）

### 記

理事（会長）：

横田治夫

城西大学

理事（会長を除く、38 名）：

天笠俊之

筑波大学

石川佳治

名古屋大学

上田真由美

追手門学院大学

梅本和俊

東京大学

榎美紀

日本アイ・ビー・エム株式会社

大塚真吾

神奈川工科大学

小口正人

お茶の水女子大学

鬼塚真

大阪大学

小山聡

名古屋市立大学

柿沼太一

STORIA 法律事務所

金政泰彦

富士通株式会社

金松基孝

株式会社東芝

河合由起子

京都産業大学

木俣豊

国立研究開発法人情報通信研究機構

金京淑

産業技術総合研究所

倉島健

日本電信電話株式会社

倉林修一

株式会社 Cygames

小杉尚子

専修大学

櫻井一貴

株式会社リクルート

佐々木史織

武蔵野大学

佐々木洋平

日本電気株式会社

下道高志

日本オラクル株式会社

鈴木伸崇

筑波大学

角谷和俊

関西学院大学

豊田正史

東京大学

中島伸介	京都産業大学
灘本明代	甲南大学
日原健	株式会社リコー
平手勇宇	楽天グループ株式会社
藤原真二	株式会社日立製作所
馬強	京都工芸繊維大学
宮崎純	東京工業大学
森嶋厚行	筑波大学
横山昌平	東京都立大学
吉川正俊	大阪成蹊大学
吉田尚史	駒澤大学
若宮翔子	奈良先端科学技術大学院大学
渡辺知恵美	筑波技術大学

監事（2名）：

中野美由紀	情報・システム研究機構
山名早人	早稲田大学

注）総務担当副会長、副会長、特命副会長は、本総会直後に開催の新体制理事会にて選定。

参考：役員が本定時総会の終結と同時に任期満了退任する役員

会長 1名 横田 治夫（城西大学）  
総務担当副会長 1名 藤原 真二（日立製作所）  
副会長 4名 灘本 明代（甲南大学）、櫻井 一貴（リクルート）、  
宮崎 純（東京工業大学）、石川 佳治（名古屋大学）  
特命副会長 3名 橋本 隆子（千葉商科大学）、木俣 豊（情報通信研究機構）、  
森嶋 厚行（筑波大学）  
監事 2名 中野 美由紀（情報・システム研究機構）、山名 早人（早稲田大学）  
理事 27名  
天笠 俊之（筑波大学）、上田 真由美（追手門学院大学）、  
梅本 和俊（東京大学）、大塚 真吾（神奈川工科大学）、  
小口 正人（お茶の水女子大学）、小山 聡（名古屋市立大学）、  
柿沼 太一（STORIA 法律事務所）、小杉 尚子（専修大学）、  
佐々木 史織（武蔵野大学）、佐藤 哲司（筑波大学）、  
角谷 和俊（関西学院大学）、中島 伸介（京都産業大学）、  
吉川 正俊（大阪成蹊大学）、吉田 尚史（駒澤大学）、  
横山 昌平（東京都立大学）、若宮 翔子（奈良先端科学技術大学院大学）、  
渡辺 知恵美（筑波技術大学）、Xiaoyong Du（Renmin University of China）、  
榎 美紀（日本アイ・ビー・エム）、金政 泰彦（富士通）、  
倉林 修一（Cygames）、下道 高志（日本オラクル）、  
高橋 翼（LINE ヤフー）、浪岡 保男（東芝）、  
西岡 秀一（日本電信電話）、濱田 光保（日本電気）、  
平手 勇宇（楽天グループ）

[第 4 号議案]

## 4. 2024 年度に係る計画等

4-1. 2024 年度事業計画書

4-2. 2024 年度予算計画書

[第4号議案]

## 4-1. 2024 年度事業計画書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業1：一般社団法人としての運営
5. 実施事業2：若手活性化
6. 実施事業3：会員交流
7. 実施事業4：イベント・国際連携・学会連携
8. 実施事業5：最強データベース講義
9. 実施事業6：データ作法（セミナー等）
10. 実施事業7：学生企画
11. 実施事業8：産学連携推進
12. 実施事業9：情報システム
13. 実施事業10：広報
14. 実施事業11：論文誌編集
15. 実施事業12：表彰
16. 実施事業13：ハラスメント防止・D&I推進

# 2023 年度事業計画書

---

## 1. 概況

---

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2024年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う4年目となる。2021年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022年度には役員を改選し会長が交代したのに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正、内規の整備を行い、さらなる学会発展を目指す方向性、活動について議論した。2024年度は役員改選を行い、委員会体制を刷新し、新たな活動として若手活性化、会員交流に焦点をあて事業を推進する。これにより、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行っていく。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与する。

---

## 2. 会員数について

---

2021年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加している。それに加えて、2021年度よりDEIMの参加者はDBSJ会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、正会員数が2022年度は822名、2023年度は895名と大幅に会員が増加した。

	2021年度総会	2022年度総会	2023年度総会	2024年3月末
正会員	484名	822名	895名	904名
学生会員	74名	503名	750名	792名
維持会員	21社	26社	26社	26社

2023 年度定時総会で定款を改定し、正会員を第一種と第二種に分割し、従来のフルアクセス権付正会員を第一種、フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した。従来 DBS 研、DE 研登録者はフルアクセス権付だったが、その特典を無くし、第一種正会員は年会費を支払うこととした。ただし、DEIM 参加者は翌年度の年会費を免除する。これにより、その年度の年会費を支払ったか、前年度の DEIM に参加した正会員が第一種正会員となる。2023 年度末時点で、第一種正会員は 355 名、第二種正会員は 549 名である。

2024 年 4 月に DEIM2024 参加者から第一種正会員、学生会員への登録作業を行った結果、第一種正会員と学生会員が大幅に増加した。また、初めて名誉会員として 15 名を任命した。

2024 年 3 月末時点、総会時点での会員数を以下に示す。

	2024 年 3 月末	2024 年総会時点
第一種正会員	355 名	419 名
第二種正会員	549 名	525 名
学生会員	792 名	986 名
名誉会員		15 名
維持会員	26 社	24 社

今後も DEIM 参加者が DBSJ 会員となることのできる特典を継続するとともに、セミナーやフォーラムの機会を通じて、会員増加に努めていく。

---

### 3. 会議等に関する事項

---

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努める。

#### 3.1 2024 年度 定時総会

2024 年 6 月 22 日(土)に開催する。

#### 3.2 理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とするが、必要に応じてリアル会場を交えたハイブリッド開催を行う。

理事会は年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

各種委員会は必要に応じて開催し、諸活動における諸事項を審議する。

---

## 4. 実施事業1：一般社団法人としての運営（定款第4条第1項8号）

---

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は、一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に、よりよくするために継続的に改善している。

活動概要では、今年度の改善項目を挙げている。

### 【活動概要】

#### 4.1 会員・会費制度の継続的見直し

昨年度改正した会員・会費制度に則った会員運営並びに会費徴収を遂行するとともに、継続的な見直しを実施する。また、名誉会員の規程または内規を整え、名誉会員を選出する。

#### 4.2 委員会や組織の構成の継続的見直し

定款第4条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会や組織の構成を随時見直し、期中であっても柔軟に対応できるよう、必要に応じて委員会や組織の構成を変更していく。その対応をするための予算を計上する

#### 4.3 DBSJ 主催による各種活動の支援

DBSJ 主催イベントを活性化するため、DEIM 等の DBSJ 主催の各種イベントの開催における一部経費を支援する。

#### 4.4 事務局業務の円滑な遂行

事務局業務を円滑に遂行するため、事務局業務の一部委託を継続する。

また、専門的な知識が必要となる課題を解決するため、必要に応じて専門家への業務委託を実施する。

#### 4.5 理事交代方法改善の検討

次回の役員選挙に向けて、役員候補者を検討する際に、理事交代の方法を改善することで実施事業の継続性担保を検討する。

また、連携組織（DBS, DE, SIGMOD-J）の組織長が理事以外の人になった場合等の対応についても検討する。

#### 4.6 会計業務の継続的見直し



昨年度、一般社団法人日本データベース学会は、消費税課税業者となった。さらに、2023年10月からはインボイス制度、2024年1月1日からは電子帳簿保存法が施行されたため、外部の税理士法人による定期的な内部会計監査などを実施してきた。今年度も必要に応じて会計業務の継続的な見直しを実施する。

#### 4.7 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第4条第1項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めていく。

---

## 5. 実施事業2：若手活性化（定款第4条第1項8号）

---

担当：若手活性化委員会

本事業の目的は、本学会の未来を担う若手研究者の活動を活性化させるための機会を提供するものである。若手研究者が主体的に行う研究活動の事務的・金銭的支援や、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動を DBSJ として実施する。

### 【活動概要】

- (1) 若手研究者がオーガナイズするワークショップ(もしくは招待セッション)開催支援  
毎年9月に開催する WebDB 夏のワークショップ等において、若手研究者によるワークショップ企画もしくはオーガナイズドセッションを募集すると共に開催支援を行う。具体的には、招待講演者招聘費用等の金銭的サポートを行うと共に、会場手配等の事務手続きを本委員会がサポートする。本活動により、若手研究者の負担を軽減しつつ、若手研究者の研究活動活性化に寄与することを目指す。ただし、あくまで若手研究者が自ら提案するプロポーザルのみを対象とし、提案することそのものが若手研究者の負担とならぬよう最大限配慮する。
- (2) 若手オーガナイズド研究イベントの研究業績(ジャーナル)化支援に関する検討  
若手研究者が提案・実施する研究イベントにおける研究発表に対して、これを提案・実施した若手研究者をゲストエディタとする DBSJ 論文誌特集号のような形で発行することについて、論文誌委員会とも連携しながら検討する。
- (3) 若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動の検討  
WebDB 夏のワークショップや DEIM フォーラム等において、若手が励みになるよう

な若手研究者向けの賞を検討するなど、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動について、表彰委員会とも連携しながら検討する。

(4) 若手活性化事業の広報および若手の要望を抽出するための Web サイト構築

本委員会の活動を広報するための Web サイトを DBSJ の Web サイトの中に立ち上げる。若手オーガナイズド研究イベントの公募や若手が気軽に提案できるようサイト運営について検討する。

---

## 6. 実施事業 3：会員交流（定款第 4 条第 1 項 8 号）

---

担当：会員交流委員会

本事業の目的は、DB コミュニティの学生を含む若手研究者の交流を促進するための機会を提供するものである。DB コミュニティに関連する学術イベント等において、会員同士が交流出来る場を提供し、特に若手研究者同士の交流を促進することで本コミュニティの活性化に寄与することを目指す。

### 【活動概要】

(1) WebDB 夏のワークショップにおける交流会の開催

研究発表セッション終了後にアルコールの提供を伴う交流会を開催する（アルコールの提供量を制限するなどハラスメント事案にならないよう最大限の注意を払う）。

また、交流会においても、会員交流促進の重要性を参加者に共有し、DBSJ における会員交流の在り方についても意見交換を行う。本件に関しては、DBS 研や DE 研とも連携する必要があることから、学会連携委員会とも連携しながら検討・実施する。

(2) DEIM オンサイト企画「ネットワーキング」のサポート

毎年更新される組織委員による運営を DBSJ がバックアップすることで、「ネットワーキング」イベントの継続的・安定的な実施をサポートする。本件は、DEIM 内で実施するイベント企画であるためイベント委員会とも連携しながらサポート方法について検討する。

(3) 会員交流促進に関する方策の継続的な検討

本学会における会員交流の促進は重要な課題である。そこで上記の活動に限らず、継続的に会員交流促進に関する方策の検討を行う。なお、この検討は当委員会メンバー内の議論に閉じることなく、交流会の場などでも問題意識を共有することで、多くの学会会

員に当事者意識を持ってもらい学会全体で検討していく。

---

## 7. 実施事業4：イベント・国際連携・学会連携（定款第4第1項1号）

---

担当：イベント委員会・国際連携委員会・学会連携委員会

本事業の目的は、DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントの企画、海外のDB コミュニティとの連携、および他学会との連携を図ることである。国内のDB コミュニティの活性化及び拡大化のためのイベントとしては、DEIM, SoC, WebDB 夏のワークショップを企画・運営する。国際連携では、ACM との連携(SIGMOD-J)、および日本と韓国(KJDB)、中国、タイ間のDB コミュニティとの連携を深める。学会連携ではDBSJ と各学会のDB 系研究会との連携を深める。

### 【活動概要】

(イベント)

(1) データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM)

DEIM2025 は、昨年度の形態を引き継ぎ、口頭発表はオンラインにて、その後ポスター発表及びチュートリアルは対面(現地)にて行う直列型ハイブリッドにて開催し、コミュニティの活性化をはかる。なお、日程は2025年2月～3月を予定し、DEIM 参加者がDBSJ 会員を1年間継続できる特典を継承する。また例年通りDBSJ アワーを開催する。

(2) ソーシャルコンピューティングシンポジウム (SoC)

DBSJ の研究分野の一つとして、ソーシャルメディアを対象とした研究が多数ある。このソーシャルメディアを対象とした研究交流の場としてSoCを開催する。開催形態は、ハイブリッドにて2日間の開催を予定。招待講演を2件程度行い、DBSJ 総会と同時開催を行う。また、産学連携イベントの併設も検討する。

(3) WebDB 夏のワークショップ

2022 年度より WebDB 夏のワークショップとして名称変更とともに開催形態をDBS/DE/IFAT 合同研究会形式に変更した会議である。DBSJ が協賛し、9月に開催する予定である。特に、若手活性化メニューについても検討を行う。

(国際連携)

(1) ACM: SIGMOD-J

SIGMOD-J は ACM SIGMOD の日本支部であるが、DBSJ との一体運営を行っている。SIGMOD-J の目的は、海外のトップ Conference に若手研究者を派遣（もしくはオンライン参加）し、そのトピックを DBSJ 会員に対して報告を行うことにより、DBSJ 会員の若手研究者の育成及び DBSJ 会員の最新研究事情の理解である。2024 年度は 3 回の開催（ICDEorWWW, SIGMOD, VLDB）を予定している。

(2) 韓国: Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

韓国 DB コミュニティと日本 DB コミュニティとの交流を目的とし、毎年日韓交互にオーガナイザーとなり秋に開催している会議である。2024 年度は韓国がオーガナイザーとなり秋頃に韓国現地開催を予定している。なお、2023 年度より KJDB の Chair は吉川正俊先生である。

(3) 中国

2018 年 CCF TCDB（中国計算機学会データベース专业委员会）と MOU を締結し、連携を強めている、コロナ禍のため連携ワークショップを開催できなかったが、2024 年度はオンラインでのワークショップ開催を検討する。

(4) タイ

タイの DB コミュニティとの連携について、具体的な連携イベントの検討を開始する。

---

## 8. 実施事業 5：最強データベース講義（定款第 4 第 1 項 1 号及び 7 号）

---

担当：DBSJ 講義委員会

本事業の目的は、DB 関連分野の各項目について、その道の第一人者ならではの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し、大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

### 【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施。

(1) 講義コンテンツの作成と配信

- (a) 最強データベース講義：大学院生，エンジニア，研究者を対象とした講義
  - (b) 最強データベース講義ベーシック：初学者（学部生）を対象とした講義
  - (c) 最強データベース教材：教員や企業での教育担当者を対象とした講義
- (2) 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査
  - (3) タグ付けや講義間の関係などの整備と公開
  - (4) 講義コンテンツの LLM 学習や RAG 等への利用を想定したデータセット整備と提供
  - (5) コンテンツを利用した勉強会等派生イベント，他の活動(DEIM 等)への接続性の検討

---

## 9. 実施事業6：データ作法(セミナー等) (定款第4第I項1号及び5号)

---

担当：セミナー委員会

本事業の目的は，セミナーを通じて，研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し，法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである。

### 【活動概要】

「私達は法に準拠してデータをどうやって集めてどのように使えばよいのか？」という研究者や技術者の疑問を解消するためのセミナーを 2019 年度から著作権法や個人情報保護法，AI や医学系研究の倫理等に関する課題などを対象として開催してきた。このような法律に関わる課題に取り組むため，法律の専門家による法的な話題の講演に加えて，企業などからの実践的な課題に対する講演，さらには参加者を交えた深堀の議論をするためのパネルディスカッションで構成されるセミナーを開催しており，2024 年度はオンラインで複数回開催し，そのうちの一部を対面で開催する予定である。

---

## 10. 実施事業7：学生企画 (定款第4第1項3号)

---

担当：企画委員会

本事業の目的は，本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし，学生自身が活躍できる機会を提供するものである。学生自身が関心を寄せるトピックを中心に，学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう，DBSJ として支援する。

### 【活動概要】

(3) イベント・プログラムの企画～設計の支援

学生自身とのプレストを通じて、学生が求めている「場」を明らかにし、イベント等に仕立てるまでの伴走をする。イベントはオンラインに限らず、オンサイト開催も視野に入れて検討をする。

企画の工程やイベントそのものを通じて、DBSJ に対する学生からの要望や意見を把握し、学生自身がより学会を有効活用できるよう DBSJ 自体の update を図る。結果としてより多くの学生に会員となって頂くことにも繋げていく。

(4) イベント・プログラムの運営支援

実際に設計されたイベントの開催において側方支援を行う。必要に応じて予算措置を講じる（会場手配や謝金等）

---

## 1 1. 実施事業 8：産学連携推進（定款第 4 第 1 項 3 号）

---

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、アカデミアとインダストリアルの間、さらにはインダストリアルとインダストリアルの間における技術的な情報の共有、人的な交流を促進することで、データ工学に関連する産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

### 【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。

- ・東芝デジタルソリューションズ：GridDB Enterprise Edition（プロダクトのみ提供）

(2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）

DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ（以下、IDR）に参画している企業より希望者に対しデータを提供し、実データを使った研究を支援する。本プログラムの参加者は、研究テーマを自由に設定し、例年秋季に開催される IDR ユーザフォーラムにて成果を報告する。また同フォーラムにおける優秀な発表に対して DBSJ 特別賞を授与、副賞として同年度の DEIM に招待、口頭発表の機会も

提供する。

(3) 産学マッチング促進のための取り組み

技術交流、人的交流両方の観点にて、産学連携を促進するための新たな取り組みを実施する。また、この取り組みに参加する企業間のコミュニケーションを創出することで産学連携の機会も創出することを試みる。具体的には、下記の2つの取り組みをDBSJ主催のイベント時に実施する。

・産学が双方に期待することのディスカッション

企業側にてどのような技術や人材が必要とされているのかをアカデミア側に共有したり、逆にアカデミア側からどのような形でそのような情報を企業側から伝えるべきなのかを企業側に共有することは、産学マッチング促進のための第一歩と考える。この考えの下、パネルディスカッション等、アカデミア・企業双方からの参加者がディスカッションする場を設ける。(6月のSoC2024を想定。)

・企業が抱えている技術課題を共有するセッション

前述のディスカッションをスケールアップさせる目的で、企業側が抱えている様々なビジネス課題やタスクについて、アカデミア側に共有するセッションを設ける。アカデミア側から見ると、企業側のビジネス課題やタスクは、良い研究テーマになりうる可能性を秘めており、産学間の共同研究促進が期待できる。必要に応じて参加者にNDAにサインすることを求めることで、企業側が共有しやすい仕組みを取り入れる。(3月のDEIM2025を想定。)

---

## 12. 実施事業9：情報システム（定款第4第1項6号）

---

担当：情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

**【活動概要】**

2024年度はホームページや会員データベースのより安定的な運用をはかる。

(1) Web・会員DBの運用・維持

---

### 1 3. 実施事業 1 0 : 広報 (定款第 4 第 1 項 2 号)

---

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

#### 【活動概要】

News Letter の刊行

- (1) 発行巻 8 号：Vol. 17, No. 1～8
- (2) 掲載記事計画：
  - ・ 定期(隔月)6 号：国際会議参加報告および会議開催報告など
  - ・ 企画①：DBSJ 各賞 受賞者の声
  - ・ 企画②：若手研究者の声など
- (3) 本会 Web ページにおいて News Letter のマルチメディア化、また、これまでメールに依存していた広報を、多くの世代に対して対応するため、複数の SNS を利用した手段への拡大を継続していく。特に、若い人向けには LINE や X の活用を検討する。

---

### 1 4. 実施事業 1 1 : 論文誌編集 (定款第 4 第 1 項 2 号)

---

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

#### 【活動概要】

日本データベース学会論文誌 (和文・英文) および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行する。

- (1) 日本データベース学会論文誌 (和文・英文) の発行
- (2) 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行
- (3) 論文誌に関する課題 (投稿数増加, データアーカイブ) について検討



- (4) 他委員会と連携し特集号の発行を企画する

---

## 15. 実施事業12：表彰（定款第4第1項8号）

---

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

### 【活動概要】

2024年度表彰として、例年通り功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。規程や賞金額の見直しなどについて議論する。フェロー制度について検討を開始する。

---

## 16. 実施事業13：ハラスメント防止・D&I推進（定款第4第1項4号及び8号）

---

担当：ハラスメント防止・D&I推進委員会

本事業の目的は、DBSJ内のダイバーシティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJに関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

### 【活動概要】

ダイバーシティ&インクルージョン推進のためのセミナーやパネルディスカッションを通じた啓蒙活動、さらにDEIMを中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施する。

- (1) D&I推進事業（男女共同参画学協会連絡会への対応を含む）

- ① 主催イベント：合理的配慮の提供に関するセミナー・ディスカッション開催
- ② 後援予定：IEEE WIE 2024 他

- (2) ハラスメント防止委員会

日本データベース学会関連イベントでの行動規範を宣言しWebで公表  
行動規範逸脱の通報ルールに関する内規を整備・更新

[第 4 号議案]

## 4-2. 2024 年度予算計画書

1. 運転資金
2. 国際会議準備金
3. 事業積立金

# 1. 運転資金

【運転資金】 (単位:円)

科目	2024年度予算額	2023年度予算額	差額	2023年度実績	内訳
<b>I. 収入の部</b>					
1. 論文誌収入	500,000	500,000	0	354,500	
2024年度論文誌収入	500,000	500,000	0	354,500	
論文掲載料	500,000	500,000	0	354,500	前年度予算と同額計上(非課税)
2. 会費収入	5,320,000	5,532,000	▲ 212,000	5,305,000	
維持会員年会費	5,200,000	5,400,000	▲ 200,000	5,200,000	本年度-富士通退会+α(非課税)
正会員年会費	120,000	132,000	▲ 12,000	105,000	40名x3000円(非課税)
3-1. 参加費 (DEIM以外)	0	90,000	▲ 90,000	0	
3-2. DEIM参加費	10,000,000	10,000,000	0	9,480,800	DEIMの収入と経費がバランスするよう運営
3-3. DEIMスポンサー	4,500,000	4,000,000	500,000	4,900,000	20社程度を想定(課税)
4. 受託研究費	0	0	0	0	
5. 基本財運用収入	400	400	0	554	銀行利息
6. その他	300,000	0	300,000	0	会員DBの保守費として事業積立金から繰り入れ
当期収入合計(A)	20,620,400	20,122,400	498,000	20,040,854	
前期繰越収支差額	37,341,643	51,133,185	▲ 13,791,542	51,133,185	
収入合計(B)	57,962,043	71,255,585	▲ 13,293,542	71,174,039	

科目	2024年度予算額	2023年度予算額	差額	2023年度実績	内訳
<b>II. 支出の部</b>					
1. 論文誌刊行業務費	0	0	0	0	
2. 最強データベース	560,000	560,000	0	207,625	最強データベース講義費用 講師謝金 240千円(20千円×12回) 動画生成 120千円(10千円x12回) 文字起こしデータ整備(50千円x2回) LLM等データ整備 100千円
3. 若手活性化	600,000		600,000		招待講演者招聘費用等(200千円×3件)
4. 会員交流	500,000		500,000		WebDBIにおける交流会サポート 200千円 DEIMネットワークイベントサポート 300千円
5. 表彰	400,000	400,000	0	600,490	前年度予算と同額計上
6. DEIM	10,000,000	11,000,000	▲ 1,000,000	10,390,728	DEIMの収入と経費がバランスするよう運営
7. イベント・国際・学会連携	700,000	680,000	20,000	120,096	前年度予算と同額計上
8. DBSJセミナー	500,000	500,000	0	265,872	講師謝金 450千円(150千円×3回) Webinar利用料 50千円
9. 学生企画	600,000	600,000	0	227,931	前年度予算と同額計上
10. 産学連携	360,000	300,000	60,000	0	DBSJ特別賞副賞予算(DEIMへの招待費用(往復の交通費ならびに宿泊費))300千円 産学マッチング促進施策予算(パネルディスカッション・パネリストへの謝金 10千円x6)
11. ハラスメント防止、D&I	60,000	70,000	▲ 10,000	10,165	講師謝金 20千円(20千円×2名) 男女共同参画学協会連絡会 分担金 10千円 IEEE WIE 2024 スポンサー 10千円
12. 会議費	250,000	100,000	150,000	44,220	Zoom25Kx6、オンライン50Kx2
13. 電子情報システム費	1,040,000	840,000	200,000	814,583	HP及びサーバ保守費用等
14. コンテンツ整備費	100,000	100,000	0	0	英文化支援費等
15. 広報事業費	200,000	66,000	134,000	0	LINEスタンプデザイン・作成
16. 事務局運営費	4,150,000	3,400,000	750,000	4,091,984	業務委託220Kx12、事務職員88Kx12、 書庫・消耗品・書籍・OAソフト・手数料等 22Kx12、 e-投票システム 110K、他80K
17. 専門家委託費用	1,500,000	1,500,000	0	1,132,450	税理士48Kx12、弁護士660K、その他200K
18. DBSJ主催活動支援	1,500,000		1,500,000	0	DBSJ主催企画1500K(軽食等)
19. 新規事業予備費		1,000,000	▲ 1,000,000	0	
20. 事業積立金	0	1,000,000	▲ 1,000,000	1,000,000	今年度は、事業積立金への繰り入れをストップ
当期通常支出合計	23,020,000	22,116,000	904,000	18,906,144	
21. その他(1)	0	11,926,252	▲ 11,926,252	11,926,252	(VLDB2020余剰金を運転資金から国際会議準備金へ移管)
22. その他(2)	0	3,000,000	▲ 3,000,000	3,000,000	(事業積立金に臨時繰り入れ)
当期支出合計(C)	23,020,000	37,042,252	▲ 14,022,252	33,832,396	
当期収支差額(A)-(C)	▲ 2,399,600	▲ 16,919,852	14,520,252	▲ 13,791,542	
次期繰越収支差額(B)-(C)	34,942,043	34,213,333	728,710	37,341,643	

【国際会議準備金】

科目	2024年度予算額	2023年度予算額	差額	2023年度実績	内訳
<b>I. 収入の部</b>					
1. 入金	0	11,926,252	▲ 11,926,252	11,926,252	
当期収入合計(A)	0	11,926,252	▲ 11,926,252	11,926,252	
前期繰越収支差額	12,315,134	2,389,212	9,925,922	2,389,212	
収入合計(B)	12,315,134	14,315,464	▲ 2,000,330	14,315,464	
<b>II. 支出の部</b>					
1. 国際会議支援金					
当期支出合計(C)	0	2,000,000	▲ 2,000,000	2,000,330	
当期収支差額(A)-(C)	0	9,926,252	▲ 9,926,252	9,925,922	
次期繰越収支差額(B)-(C)	12,315,134	12,315,464	▲ 330	12,315,134	

## 2. 国際会議準備金

### 【国際会議準備金】

科目	2024年度予算額	2023年度予算額	差額	2023年度実績	内訳
<b>I. 収入の部</b>					
1. 入金	0	11,926,252	▲ 11,926,252	11,926,252	
当期収入合計(A)	0	11,926,252	▲ 11,926,252	11,926,252	
前期繰越収支差額	12,315,134	2,389,212	9,925,922	2,389,212	
収入合計(B)	12,315,134	14,315,464	▲ 2,000,330	14,315,464	
<b>II. 支出の部</b>					
1. 国際会議支援金					
当期支出合計(C)	0	2,000,000	▲ 2,000,000	2,000,330	
当期収支差額(A)-(C)	0	9,926,252	▲ 9,926,252	9,925,922	
次期繰越収支差額(B)-(C)	12,315,134	12,315,464	▲ 330	12,315,134	

## 3. 事業積立金

### 【事業積立金】

科目	2024年度予算額	2023年度予算額	差額	2023年度実績	内訳
<b>I. 収入の部</b>					
1. 当該年度積立金	0	1,000,000	▲ 1,000,000	1,000,000	
2. 入金	0	3,000,000	▲ 3,000,000	3,000,000	
当期収入合計(A)	0	4,000,000	▲ 4,000,000	4,000,000	
前期繰越収支差額	6,547,167	5,517,827	1,029,340	5,517,827	
収入合計(B)	6,547,167	9,517,827	▲ 2,970,660	9,517,827	
<b>II. 支出の部</b>					
1. 事業積立金費用	0	0	0	0	
2. 会員DB整備事業費	300,000	4,500,000	▲ 4,200,000	2,970,660	会員DBの保守費として運転資金に繰り入れ
当期支出合計(C)	300,000	4,500,000	▲ 4,200,000	2,970,660	
当期収支差額(A)-(C)	▲ 300,000	▲ 500,000	200,000	1,029,340	
次期繰越収支差額(B)-(C)	6,247,167	5,017,827	1,229,340	6,547,167	